

【ねがいましては】

平成14年4月8日

第143号

KYOWA SCHOOL

「ハートプレゼント」

3月26日(火)上野動物園への遠足。小学校一年生から中学校3年生まで幅の広い参加者達。

8月に行われるキャンプでもそうなのですが、学年差を越えた彼らのつながりには感心させられます。行きの地下鉄の中では、あたりまえなのですが「他人」であっても、帰りの地下鉄の中では、「友達」。学校の中ではそうは築かれない学年を超えた関係が自然に持たれていることに、私は少しばかりうれしい気持です。人里離れた山村の中にある「分校」のようです。

きれいに年齢でくざられた箱の中で、国の定めた教育カリキュラムを淡々とこなしてゆく現代社会の教育現場では生まれないものがあります。

わたしは、この小さな10畳間から生まれ出る「温かいもの」が好きでなりません。彼らもきっと言葉では表現しずらくても、同様に思っていると思います。動物園の帰りの道、桜の咲き乱れる道の中を、4人5人が手をつないで横に広がって歩いています。私はその光景を後ろからニコニコしながら見ています。お金を払って見ることのできない素晴らしい光景です。中学3年生の両方の手には小学校2年生の手があります。笑い声が桜の花びらとともに聞こえてきます。

今でも目をつむれば見えてきます。そしてなんとも言えない幸せな気持が私を包み込みます。

「ありがとう」としか表現できません。そのような気持をいただけること。「ハートのプレゼント」です。

3月28日(木)、以前から珠算連盟より依頼されていた仕事のため、私はどうしても出席できず、当日の「くりたのランチ春期講習」(私がお昼ご飯をつくります。・・・かなり美味しいようです。)の指導は、高校生、新高校生たち、及び中学生達5人をお願いしました。その中の2人は、その日予定があったにもかかわらず、わざわざキャンセルしてくれました。また一人は、学校からの宿題に追われているにもかかわらず手伝ってくれました。また、ひとりは先日交通事故に遭い後遺症が出るかもしれない中を手伝ってくれました。

私は彼女らに絶大な「信頼」を置いています。信じきっているのですね。Jちゃんはそのスタッフの中でも一番年上なので、陣頭指揮に立ってフルに動いてくれていたとのこと。Yちゃんは、得意の数学を新中学一年生にコーチ。Aちゃんは、小学校一年生の子に「漢字」の手ほどき。Mちゃんはオールラウンドプレイヤーとして、Sちゃんは、もっぱら大切なムードメイカーとしての役割を果たします。彼女達は、それぞれに「気づき」、「生徒たちのため」に動きます。私は特に具体的な指示はしていません。彼女達の自発的な行動のみです。きっと賑やかに明るいムードの中で「勉強」していたことだろうと思います。

一般に、教師がその教室にいなければ、生徒たちはこれ幸いと「楽」をしたがります。遊んだり、話したり。本来せねばならぬことなど「ポイッ」。

私にはなぜだか「自信」があるのです。ここに通う子たちは、私がいてもいなくてもいつものように歩いてくれることを。「自分歩き」・・・この教室の玄関に張ってあるこの言葉。失敗してもとがめない。自分のスピードで歩く。助け合う。これがこの教室の大きな柱になって、自分歩きを完成させているものと思っています。もちろん「まじめ」なことは言うまでもありません。

私はこの教室に通う生徒さんに、「感謝」の気持をどう伝えたらよいやら、そんな贅沢なことに悩んでいる自分は、なんて「幸せ者」なのだろうと思っているのです。

4月の予定

新学期より毎週土曜日がお休みになりました。KYOWA SCHOOLでは新企画を計画中です。

20日(土) クリクリクラブ・・・皇居一周いろいろ発見・・・別紙にてどうぞ